堀江中学校　校長室だより　　令和5年度 No.18

さくら

令和5年9月11日（月）

離見の見（りけんのけん）

日本には、「能」という古典芸能があります。面をかぶり、美しい装束をまとい演じます。その起源は、奈良時代に中国から伝わった「散楽（さんがく）」という芸能を源流としています。

室町時代になり、観阿弥（かんあみ）、世阿弥（ぜあみ）の親子により能は大成されました。その歴史は600年をこえ、現在では世界でも広く認知されるものとなりました。

能では、舞を演じる者の観点を「我見（がけん）」といい、見ている観客の観点を「離見（りけん）」といいます。

演者には、自分の前や左右は見えていますが、自分の後ろ姿や舞っている姿は見えていません。このような状況が我見です。離見では、観客は演者の後ろ姿など、演者には見えないところまで見ることができます。

能を極めるには、我見だけでなく離見が大切だと世阿弥は言っています。このことを世阿弥は「離見の見（けん）」と表現しました。演者は自分の見ているものだけではなく、観客の視点で自分を客観視できることが芸の完成につながると言うのです。

このことは、芸事だけではなく、さまざまな事柄に当てはまります。あるフレンチのシェフは次のように言いました。「私の舌は間違いない。これぞ究極の味だ。どんな客が食べても最高の評価をするに違いない」 果たしてそうでしょうか。これは、あくまでもシェフの感覚。料理を食べるお客様の立場では考えていません。

自分はこのようにされたら嬉しく感じる。だから、Ａさんにも同じようにしてあげよう。もしかしたら、それはＡさんにとってはお節介と感じることかもしれません。Ａさんのことを考えて慎重に行動する必要があるでしょう。

私たちは、物事を自分だけの視点で見ることに注意しなければなりません。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。